



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3669号 2017.5.24 発行

障害分野の書物約7千点 東京にアーカイブセンター 朝日新聞 2017年5月24日  
約7千点の資料が並ぶ「きょうされんアーカイブセンター」=東京都中野区



障害者の地域生活を支援する事業所の全国組織「きょうされん」がアーカイブセンターを東京都中野区の事務所内に開いた。1970年代の作業所の記録や障害がある当事者が書いたエッセーや小説など、障害の分野にかかわる約7千点の書籍・資料を閲覧できる。

脳性まひで言葉や歩行に障害があり、今年13日に肺炎で亡くなった俳人の花田春兆さん（享年91）のコーナーもあり、句集「天日無冠（てんじつむかん）」（1963年）など38冊の関連書や資料が並ぶ。障害者問題への理解と啓発に尽くした足跡を知る一助になりそうだ。精神医学の父とされる故・呉秀三らが設立した学会の機関誌「神経学雑誌」（1906～32年分）といった専門誌もある。

当面は閲覧のみだが、インターネットで検索できるようデジタル化も進めていく。平日午前9時～午後5時。入館無料。きょうされん（電話、03・5385・2223）のホームページから蔵書一覧を見ることができる。資料の提供も呼びかけている。

「電車の見えるカフェ」人気 松本、口コミで評判 信濃毎日新聞 2017年5月24日

松本市双葉の南部福祉複合施設「なんぷくプラザ」1階にある「希望の家 Cafe ポリジ」が、「電車の見えるカフェ」として親子連れに人気だ。市社会福祉協議会が運営する近くの障害者就労支援施設「希望の家」の利用者が働くカフェで、昨年8月に開店。鉄道好きの子どもと楽しめる口コミで評判が広まっている。

施設東側にJR篠ノ井線があり、カフェの窓から特急の「あずさ」「しなの」などが通過するのを見ることができる。

カフェ担当職員の斉藤敬子さん（51）によると、近くの児童センターの職員の勧めなどで、徐々に利用者が増えているという。2歳前後の子どもに人気で、冬季は毎週訪れる常連客も。列車の名前は子どもの方が詳しいといい、「こちらが教えてもらっています」と話していた。

記者コラム 窓 違和感 中日新聞 2017年5月24日

記事を書きながら別の言い方はないものかと毎回思う。「障害者」という言葉のこと。「障害のある人」「ハンデのある人」と言い換えてはみるが、特に字数が限られた見出しでは使わざるを得ない場合が多い。

コミュニケーションが苦手な音に敏感という自閉症の女性を取材した際も思った。複数の仕事を経験したがうまくいかず、自分に合った仕事を見つけようと就労支援事業所に通っている。人は誰しも苦手はあるもの。私もそう。なのに彼女を「障害者」と呼ぶことで、自分との間に一線を引いてしまうことに違和感でいっぱいだった。

障害のある人を雇用する男性経営者は取材に「障害はその人の全部ではなく一部」と話した。その実感を表すようないい言葉、どこかにないものか。（小室亜希子）

### 福井 障スポ500日前でダンスソングCD発売 中日新聞 2017年5月24日

福井国体・全国障害者スポーツ大会（障スポ）の五百日前を記念して、県は二十三日、公式ダンス「はびねすダンス」のダンスソング「君が最高に輝くように」などを収録したCDを県内で発売した。

福井市二の宮五の書店「スーパーカボス新二の宮店」で発売イベントがあり、マスコットキャラクター「はぴりゅう」が購入者にCDを手渡したり、来店者に購入をアピールしたりした。はぴりゅう（左）から購入したCDを受け取る子ども＝福井市のスーパーカボス新二の宮店で



CDはダンスソングのオルゴールバージョンや、はびねす音頭なども含めて十四曲が入っており、一枚五百円。売り上げのうち、製作費を除いた利益を国体の運営費として活用する。千枚を製作し、県内の勝木書店・カボスの計十四店舗で取り扱いを開始。今後は県庁内の県庁生協や国体関連グッズを取り扱うスポーツ用品店などでも順次販売する。

ダンスソングは福井国体のホームページからダウンロードできるが、CD販売への問い合わせも多かったため、製作することにした。（笠松俊秀）

### キーホルダー 個性的 ソテツで手作り、人気 障害者支援、和歌山市の事業所製作 /

和歌山 毎日新聞 2017年5月24日



「幸せを呼ぶそてつsan」（中央と左）、「にやるま」（右）を持つクリエイターズのスタッフら＝和歌山市寄合町のクリエイターズで、木原真希撮影

和歌山市の障害者就労継続支援事業所「クリエイターズ」が作る、ソテツの実を使ったキーホルダー「幸せを呼ぶソテツsan」が人気を集めている。表面に少女やキャラクターの顔が描かれた可愛らしい作りで、市内のイベントで販売したところ好評で、増産を急いでいる。

スタッフの藤田晶子さん（53）ら2人が約4センチ大のソテツの実にサインペンで少女やオリジナルのキャラクターの絵を描いている。さらにソテツの実に合うように毛糸のカバーを手編みし、1個1個丁寧に着せている。

### 私たちの木工、返礼品に 高山市ふるさと納税 岐阜新聞 2017年05月24日

知的障害のある子どもが通う飛騨特別支援学校（岐阜県高山市山田町）の木工製品が本年度、高山市のふるさと納税の返礼品に加わった。作るのは、高等部の木工芸芸班（木工班）の生徒11人。同校によると、特別支援学校の製品が返礼品に選ばれたのは県内で初めてで、「学校や、生徒の取り組みを知ってもらおうきっかけになる」と期待している。

1万円以上の寄付に対する返礼品で、おもちゃのヘリコプターや車、鍋敷き、まな板など10点。市のカタログでは地元の名だたる木工メーカーの製品と並ぶ。既に東京都の男性から注文が入った。工芸班長の3年川上春香さん（18）は「みんなが努力して作る自慢の製品。小さい子どもも触れるので、とげなどがないよう厳しく点検している」と胸を張る。



高山市のふるさと納税の返礼品に選ばれた製品を手にする木工班の生徒＝岐阜県高山市山田町、飛騨特別支援学校

市が昨年の市制施行80周年を記念して制作した映像に木工班の生徒が出演したことが採用のきっかけ。市の担当者は「ぬくもりのある素晴らしい製品。生徒が頑張っている姿を市外の人に伝えられれば」と話す。

同校では、高等部の生徒が木工、陶芸、染織、調理、手芸の5班に分かれ、手芸のほかは週9時間、作業学習に取り組む。将来、働くための基本的な技能や態度を身に付けるのが目標だ。

松井みどり校長（60）は「質の高い製品を目指しており、返礼品として認められたのはうれしい。全国的に知られることで生徒の励みになる」と話している。

松井みどり校長（60）は「質の高い製品を目指しており、返礼品として認められたのはうれしい。全国的に知られることで生徒の励みになる」と話している。

## 普通って何？ 優しさって？ 障害者施設を追ったドキュメンタリー映画「幸福は日々の中に。」 27日から上映

産経新聞 2017年5月24日

ドキュメンタリー作品「幸福は日々の中に。」の一場面



自由な表現活動に取り組んできた鹿児島県の知的障害者施設「しょうぶ学園」の活動を追ったドキュメンタリー作品「幸福は日々の中に。」が27日から大阪市淀川区の大阪第七芸術劇場で上映される。

同学園では、入所者らが楽器を弾いたり、たたいたり、叫ぶ音楽隊の活動や、シャツなどの布に思いのまま針と糸を走らせるアートプロジェクト、魅力

あふれる多様なクラフトワークなどを通して、自由な表現活動に取り組んできた。

あるがままの自分であることが認められている風景は、社会のルールに縛られ、苦しみのあまり叫びたくても叫べない健常者には自らを映し出す鏡になるという。「普通って何？」「優しさって何？」と問いかけてくる作品だ。

ドイツ人映像作家のヴェルナー・ペンツェルさんと、映像作家で写真家でもある茂木綾子さんによる共同監督作品。上映は6月9日まで（1日1回。2日までは午後0時35分から、3日以降は午後6時半から）。一般1800円。問い合わせはサイレントヴォイス（（電）03-3584-0286）

## 重症心身障害者に通所施設を 刈谷駅前募金活動

中日新聞 2017年5月24日

重症心身障害者の通所施設建設のため、募金を呼び掛ける人たち＝刈谷駅前



社会福祉法人ひかりの家（刈谷市小山町）が、新たな重症心身障害者の通所授産施設建設のため、募金活動を続けている。既存施設は満員で、受け入れ先を探す障害のある子どもたちも、刈谷駅前21日にあった活動に車いすで参加し、協力を呼び掛けた。

特別支援学校を卒業した主に成人の障害者が、クッキー作りや下請け作業を通じた社会参画・機能訓練に

取り組む施設。同法人では二〇〇六年に「ひかりワークス 風鈴」（同市新田町）を開所させたが、すでに定員いっぱい、新たな受け入れは難しい状況となっている。

特別支援学校に重症心身障害のある子を通わせる保護者たちは二〇一一年、卒業後の居場所となる施設「第二風鈴（仮称）」設立を目指して団体「アシストりん」を結成。「ひかりの家」とともに行政に働き掛けるなど、新施設建設のために活動してきた。

「りん」の石川尚子代表（４３）の長女、莉子さん（１６）は、ひいらぎ特別支援学校（半田市）高等部二年で、一九年三月に卒業する。市内に毎日、通わせられる施設はなく、石川さんは「せっかく学校で培ってきたリズムが崩れてしまうのが不安」と打ち明けた。

新施設の土地は、刈谷市が同市神明町の千五百平方メートルを無償貸与することになっており、問題は建設費。国からの補助金などを見込むが、法人の自主財源を充てても三千万円ほど不足する。

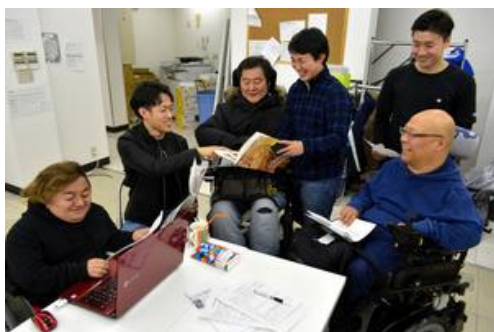
同法人の川村顕治さん（４３）は「重度の障害がある同校の四人が、同時に卒業する一九年の四月に開所させたいが、資金を確保できるか。子どもの行き場がなくならないように、多くの人から協力を得たい」と話している。

今回の募金活動は六月十八日午前、刈谷駅前。振り込みや持参による寄付も受け付けている。（問）ひかりの家＝０５６６（２１）１１３３（土屋晴康）

## 大阪）熊本地震で被災障害者を支援、NPOが冊子 山根久美子

朝日新聞 2017年5月24日

活動報告冊子の編集作業をする洲上賢治さん（左から3人目）らメンバー＝大阪市天王寺区



発生から1年が経過した熊本地震の被災地で、被災した障害



者を支援してきた関西各地の障害者やヘルパーらで作る団体が、1年間の活動をまとめた冊子を編集した。被災者の声や支援に駆けつけたヘルパーたちのレポート、支援を通して見えた課題を記録。6月までに製本し、販売を始める予定だ。

「熊本地震障害者救援本部関西実行委員会」は、関西各地の自立生活センター（CIL）、被災した障害者を支援する大阪市のNPO法人「ゆめ風基金」など12団体で、熊本地震の発生を受け昨年4月末に結成した。

CILは障害者自身が運営し、ヘルパーを派遣するなどして障害者の生活をサポートする組織。障害者を受け入れていた熊本学園大学（熊本市）でヘルパーが足りないという情報を受け、各CILからヘルパーをボランティアとして派遣した。

## 障害児施設「1人ずつ支援計画」了承 厚労省検討会で指針案

日本経済新聞 2017年5月23日

厚生労働省の有識者検討会は23日、就学前の障害を持つ子供が通う施設を対象にした初のガイドライン案を大筋で了承した。1人ずつ支援計画を作成するよう明記。施設が計画に沿った適切な支援がなされているか、保護者などに22項目のアンケート調査を実施し、その結果をホームページなどで公表するよう求めた。6月下旬から都道府県などを通じ施設に順守するよう求める。

2012年の児童福祉法改正で「児童発達支援制度」が導入された。民間団体などが運営する施設で、日常生活の基本動作などを学ぶ。原則1割負担で利用できる。

ガイドライン案では、施設は障害を持つ子供の現状を適切に把握することが必要としている。

## 京都市 800万円徴収漏れ 障害福祉サービス、国通知見落とし計算ミス / 京都

毎日新聞 2017年5月24日

京都市障害保健福祉推進室は23日、障害福祉サービスの利用者負担金で、2008年度から総額約800万円近い徴収漏れがあったと発表した。192人の上限月額について、国の通知通りに市担当者が計算していなかった。市側のミスであるため該当の市民からは追徴しない方針。

障害福祉サービスの利用者負担金は原則として費用の1割負担で、上限額は市民税所得割額で決まる。

## 児童虐待対応922件...「子前で暴力・暴言」増える 読売新聞 2017年05月24日

県は23日、岡山市内で行われた児童保護の対策協議会で、昨年度の児童虐待の対応状況（速報値）を発表した。県内の4児童相談所の対応件数は922件（前年度801件）と増加。ネグレクト（育児放棄）や、子どもの前で暴言や暴力を振るう心理的虐待の増加が目立ち、早期対応の必要性が指摘された。（檜崎基弘）

児童相談所別では、岡山市が469件（前年度315件）と1・5倍に急増。倉敷244件（同257件）、津山115件（同151件）、中央94件（同78件）と続いた。

内容はネグレクトが最も多い479件（同454件）で、心理的虐待は322件（同222件）で大幅に増えた。身体的虐待は111件（同119件）、性的虐待は10件（同6件）あった。

相談経路は、警察などが最も多く341件（同210件）。夫婦げんかなどで警察官が駆け付けた際、子どもの前で暴力を振るうなどしたケースも多く、全体数を押し上げる要因となっている。

児童虐待の通告は市町村にも一部重複する形で寄せられており、県全体は1091件（同1022件）でほぼ横ばい。岡山市は407件、その他の市町村は684件だった。

県内では昨年、母親の無理心中で子どもが死亡するなどの事件が発生。県は4月に出された児童虐待の死亡事例の報告書を踏まえ、今年度から実施する児童虐待防止の行動計画を作る。主な計画案では、市町村で設置が進む「子育て世代包括支援センター」などの運用体制を整え、きめ細かな育児支援による不安・負担の軽減を図り、地域での孤立化も防ぐ考え。

生活保護世帯や親が精神的不調を抱えているケースでは、地域の対策協議会に医療関係者らを加えるほか、里親制度のさらなる普及を図って研修や追跡調査を進めるなどの対策もあがっている。

## リサイクル事業者が社福法人を設立 金属ゴミ分別などで障害者雇用

福祉新聞 2017年05月24日 編集部

障害者雇用とリサイクルを結びつけて開所した就労継続支援A型事業所がある。鹿児島市の社会福祉法人環和会が運営する「資源再生工場エコランド」(宇都久夫施設長)だ。リサイクルのプロが考えた障害者雇用の仕組みは、利用者の自立に大きく貢献。リサイクルの可能性を広げる活動としても注目されている。

#### ベルトコンベアを流れる金属を14種類に分別する

環和会は、大手リサイクル事業者(株)荒川(荒川直文・代表取締役)の創業者で、2015年11月に亡くなった荒川文男会長が「社会に貢献したい。障害者を支援したい」という強い思いで、13年8月に設立した社会福祉法人。本業のリサイクルを障害者雇用に生かし、14年4月にエコランド(定員30人)を開所した。



民間企業が障害者を雇用する場合、特例子会社を設立する方法もあるが、故荒川会長は、景気などに左右されず継続的な支援をするには、社会福祉法人が良いと判断。(株)荒川が扱うさまざまな事業の中から、障害者でもでき、高い賃金を得られる金属ゴミの選別、電線むき、ガス・水道器具の分解などを作業の柱に据えた。

金属ゴミの選別は、(株)荒川で廃自動車など破碎し、ボディーなどの大型ゴミを取り除いた後のエンジンやラジエターなどの金属ゴミを分別する作業。大型クレーンでベルトコンベアに運ばれた金属ゴミを色や重さ、磁石に付くか否かなどで判断し、鉄、銅、アルミニウム、ステンレスなど14種類に分ける。選別能力には個人差があるが、少しずつ経験を積み選別できる種類を増やしていく。現在23人が従事し、3人が14種類を選別できる。

電線むきは、長い電線を1~2メートルに切断した後、専用の機械で外側のゴムなどを取り除き、中の銅線を取り出す。ガス・水道器具は取っ手やパッキンなどを外して、真ちゅうや鉄などを分別する。



#### 専用の機械で銅線を取り出す

選別した金属ゴミは、(株)荒川が1キロ50円で引き取り、加工業者に販売する。毎月の引き取り量は約60トンで、収入は300万円に及ぶ。「選別すると販売価格が倍以上になる。材料費もかからず、収入のすべてを賃金に反映できる。利用者には最低賃金の1時間715円(鹿児島県)を払っており、平均月額8万~9万円になる」と

宇都施設長は話す。

また、前施設長の西元泰光理事は「金属ゴミの選別は、粘り強く真面目な障害者に向いている。エコランドで選別するようになって、(株)荒川は別の仕事ができるようにもなった。互いにプラスになっている」と話す。

精神障害者を中心に就労意欲の高い人が多いエコランド。開所後3年で3人が一般就労し、2人が溶接技術を学ぶために進学するなど次のステップに進む人も多い。そんな個々の希望に応じた支援ができるのも社会福祉法人だからだという。

今後の課題は、市の要請に応え、OA機器や廃家電のリサイクルを行うことだが、今の人数では手が回らない。人手は増やしたいが、金属片で手をケガするなどのリスクもあり、働ける人が限られる悩みもあるという。

「障害者の力を生かそう」と、数多い作業の中から金属ゴミの選別などを選んだ故荒川会長。リサイクルのプロが考えたその仕組みは、障害者雇用とリサイクルの可能性を広げる先駆的取り組みになっているようだ。

**県視覚障がい者を考える会 弱視患者支援、手引き作成 医療や福祉の情報見やすく 5  
000部配布 /愛媛** 毎日新聞 2017年5月24日


	教育機関	福祉機関	医療機関
本や新聞が読みたい	●	●	●
まぶしくて困る	●	●	●
外を歩くのが大変	●	●	●
便利な日常用具や学習用具が欲しい	●	●	●
学校生活や進路に不安を感じる	●	●	●
仕事に支障が出てきた	●	●	●

★ **教育機関**  
見えにくい・見えないために学習上の困難をかかえている方を対象とした学校です。それぞれの見え方に配慮した学校教育や資格取得に向けた職業教育、教育相談を行っています。

★ **福祉機関**  
見えにくい・見えない方のための社会参加の拠点として、各種相談・情報提供・自立生活訓練などを行い、不自由を解消するお手伝いをします。毎月楽しみながら交流できる様々な内容の交流サロンも実施しています。

★ **医療機関**  
身体障害者手帳の取得に必要な検査や書類記入をはじめ、拡大読書器やルーペ、遮光眼鏡の選定を行います。(詳細は各施設にお問い合わせください。)

**見えにくい  
見えないことで  
お困りでは  
ありませんか？**



**eye  
みきゅん愛ネット**

視覚障がいについて相談できる  
愛媛県内の施設紹介

愛媛県視覚障がい者を考える会が作成したリーフレット「みきゅん愛 (eye) ネット」

視力が著しく低下する弱視患者などの学校生活や社会活動などを支援しようと、「県視覚障がい者を考える会 (代表=宇和島市立宇和島病院眼科医の宇田高広さん)」が教育、福祉、医療の支援機関を紹介するリーフレット「みきゅん愛 (eye) ネット」を作成。県内の眼科や診療所など106

カ所で、約5000部配布している。【花澤葵】

**子育てしやすい政令市、北九州市1位...6年連続** 読売新聞 2017年05月24日

子育て環境の充実度をNPO法人が順位付けする2016年度の「次世代育成環境ランキング」で、北九州市が政令市部門で6年連続の1位になった。

小児医療の充実ぶりや待機児童数の少なさが評価された。市は「引き続き子育てしやすいまちづくりを進めていきたい」としている。

男女共同参画に取り組むNPO法人「エガリテ大手前」(東京)が、政令市と中核市の計65市と東京23区を対象に、「小児医療」「児童福祉」など7項目ごとに評価。国の統計などを分析し、独自の基準で点数化して順位を決めた。点数は非公表。

北九州市は、24時間態勢で小児救急を手がける医療機関が4か所あることが評価され、「小児医療」の項目で1位となった。また、待機児童数が少ないことを受けて「乳幼児保育」が3位、産婦人科の病院や診療所の多さから「出産環境」が4位になるなど、全項目が10位以内に入った。

政令市はほかに、京都市が2位となり、熊本、岡山、名古屋の各市が続いた。中核市は北海道函館市が1位だった。

同法人の古久保俊嗣代表は「北九州市は放課後児童クラブが充実し、『児童保育』の項目の評価も上がっている。市と市民が子育てに積極的に関わろうとしている」と評価している。

同市は「子育て環境を充実させ、市の魅力として発信し、市外からの移住や定住の促進につなげたい」としている。(篠原太)

**保育施設25%で人材不足、このうち2割で子どもの受け入れ制限**

読売新聞 2017年5月24日

独立行政法人福祉医療機構が全国の保育施設を対象に行ったアンケートで、保育士などの人材が「不足している」と回答した施設が25%に上った。

このうち約2割の施設は、子どもの受け入れを制限していた。

アンケートは昨年9～10月、約5700か所の私立認可保育所と私立認定こども園に実施。約1600施設が回答した。

人材不足への対策（複数回答）では、「求人活動を実施」が最多で99%、「労働時間の変更や調整」が65.6%で続いた。多くの施設が新卒採用が厳しくなったと回答し、「開園以来、初めて学生の応募がなかった」という施設もあった。

## 当事者が集い、話す つばさの会で生駒さん わかやま新報 2017年05月23日

NPO法人和歌山市精神障害者家族会「つばさの会」（岡田道子理事長）の総会と公開講座が21日、同市吹上の市保健所で開かれ、和歌浦病院の生駒芳久副院長が「精神障害者と家族」をテーマに講演した。

会員の他、市民ら約110人が参加。

全盲の精神科医として今も診療に当たる生駒さんは、網膜色素変性症を患い、大学卒業後、会社員や公務員を経て県立盲学校に通ったことなど、自身の体験を基に講演。視力が低下する中、30歳を過ぎて医師を目指した際には、「生活さえできればいい」と考える親の思いとの間に、相違があったと振り返った。

自身の診察においては、当事者の思いに耳を傾けることを大切にしていると話し、「家族は当事者に比べて障害に対する見方や感じ方が違い、理解が異なることがある。それが双方の摩擦の原因になることもある」と指摘した。



### ウクレレを演奏し、来場者と歌う生駒医師

また、悩みや孤独を乗り越えるために重要なこととして、「集う」「話す」「笑う」の三つを紹介。話を聞き、黙ってうなずき、共感してくれることには言葉を越えたものがあるとし「家族会のように、心配なことや情けないようなことを話せる場があると、一人ぼっちではないと安心することができる」と話した。

例えつらいときであっても、笑うことで気持ち

がほぐれるとし、自身のウクレレ演奏に乗せ、会場の参加者と共に「上を向いて歩こう」を歌った。

岡田理事長は「障害者でありながら、心を見つめる精神科医として診療を続ける生駒先生。当事者でないと分からない貴重なお話が聴けました。家族会としても、親として子どもの思いを十分に理解できるよう、質の向上に取り組んでいきたいです」と話していた。

## エフピコ小松安弘会長が死去 79歳 中国新聞 2017年5月24日

食品容器製造のエフピコ（福山市）の創業者で、会長の小松安弘（こまつ・やすひろ）氏が23日、福山市の病院で死去した。79歳。井原市出身。告別式は近親者で行い、後日、お別れの会を開く。

1960年、日本大経済学部を卒業し、62年に福山パール紙工（現エフピコ）を創業。簡易食品容器では国内トップメーカーに育てた。2009年、会長に就いた。

食品容器のリサイクルや障害者雇用、教育文化の振興にも尽くした。

13年に旭日重光章を受章。16年に福山市名誉市民になった。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も





大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行